

# ●▲ みねのぶ



女性部大豆サークルが味噌作り(峰延福祉会館厨房 2月24日)

■発行日/平成28年3月1日/No.1367号

■発行/峰延農業協同組合

〒079-0192 美唄市字峰延37番地

Tel 0126(67)2111 Fax 0126(67)2793

ホームページアドレス <http://www.ja-minenobu.or.jp/>

■編集/総務課 ■印刷/空知印刷株式会社

『菜宝箱』(中小屋)が  
道の女性チャレンジ活動表彰で  
奨励賞受賞

北村中小屋で落花生栽培と加工品に取り組んでいる女性農業者グループ「菜宝箱」が、北海道が実施している女性・高齢者チャレンジ活動表彰で平成27年度の奨励賞を受賞しました。伝達式は2月5日に岩見沢市役所で行われ、代表の小林和江さん、宮田幸子さん、伊藤哉子さんが出席しました。

「菜宝箱」は平成17年に地域活性化のために女性が何か出来ないかと志を抱く仲間14人で結成し、道内では珍しい落花生栽培に取り組み、農業改良普及センターの指導を受けながら平成18年から全員で栽培に取り組み、研修会を重ねて栽培技術向上を図ってきました。「菜宝箱」のヒット商品は殻付き塩茹でした「おつまめ落花生」で、生産量が増えたため、平成20年に共同加工施設を設置し「塩茹で落花生」の冷凍加工のほか、「ピーナツドレッシング」を開発し直売の他に市内の温泉施設等で販売しています。

北海道は農業経営の改善や起業化、農村生活の充実、地域の振興

等のために積極的に活動している女性農業者や高齢者を表彰し、その活動成果を広く紹介するために「女性・高齢者チャレンジ活動表彰」を実施しています。

第12回(1月定例)理事会開催

1月29日開催の第12回(1月定例)理事会において次の事項が決定されました。

◇付議事項◇

1. 理事に対する平成28年度クミカイン取引の貸越極度額等の設定について
2. 信用限度を超えた資金の貸付について
3. 平成28年度内部監査計画について
4. 規程等の一部改正について
- ①労働保険事務組合事務処理規程
- ②特定個人情報取扱細則
5. 決算実地棚卸の実施について
6. 持分の減口について

2月臨時理事会

2月23日開催の臨時理事会において次の事項が決定されました。

◇付議事項◇

1. 平成27年度事業決算結果及び剰余金処分案について
2. 定款等の一部変更について

①定款

②(定款附属書) 役員選任規程

- ③規約
- ④信用事業規程
- ⑤農業経営規程
- ⑥農業倉庫規程の廃止

第1回(2月定例)理事会開催

2月25日開催の第1回(2月定例)理事会において次の事項が決定されました。

◇付議事項◇

1. 通常総会の招集、総会議案について
2. 総会における表彰について
3. 地区別懇談会の開催について
4. 平成28年度の理事に対する資金貸付方針について
5. 道検査指摘事項に対する改善状況等の報告について

一報徳一

『惰民も人口減も失政から』

翁は言葉をついで言われた。およそ、田畑が荒れるのは惰農の罪だといひ、人口が減ずるのは産んだ子を育てず

に殺す、悪習のせいだというのが普通の議論だが、どんな愚民だとして、ことさらに田畑を荒らして自ら困窮を招くはずがあるまいか。また、鳥や獣ではあるまいし、親子の情がないはずがあるうか。それなのに産んだ子を育てないのは、食物が乏しくて、育てきれないためなのだ。

その本当の気持ちを探してやれば、哀れといって、これほど哀れなことはない。その元はといえば、重い課税に耐えられぬために田畑を捨ててつぐらないうこと、民政が行き届かぬために堤防や用排水や道・橋が破壊して、耕作困難になることと、ばくちが盛んに行われて風俗が退廃し、まともな民心が失せて耕作しなくなることで、この三つだ。こうして耕作しないから食物が減るから人口が減るのだ。食があれば民が集まり、食がなければ民は散ずる。古語(論語、堯日篇)に「重んずるところは民食葬祭」とあるように、最も重んずべきものは民の米びつなのだ。例えばこの座にはえを集めようとするときいくら捕まえてきて放しても、また追い集めても、決して集まるはずがない。ところがここに食物を置けば、気をくばらなくてもたちまち集まるし、追い払っても逃げ去らないことは目に見えている。だから聖語(論語、顔淵篇)に、政治の要は「食を足す」ことだとある。まことに、重んずべきものは人民の米びつだ。また、そなた達、おのれの米びつも大切なことを忘れてはならぬ。

(夜二三八)

**平成27年度期末監事監査終わる**

当JAの平成27年度期末の監事監査が2月15日から25日までの日程で、浅香代表監事、高田監事、佐々木員外監事により精力的に執行されました。監査の対象は平成27年度事業全般の業務執行結果及び事務処理結果の他、決算結果による財務諸表の適正等について検証・確認が行われ、最終日の25日には常勤理事の他に幹部職員に対して監査講評が行われました。

**JA第68回通常総会  
3月24日開催予定**

当JAの第68回通常総会は、3月24日午後1時30分からJA三階大会議室で開催する予定です。

平成27年度事業報告、貸借対照表、損益計算書、剰余金処分案、注記表の承認、平成28年度事業計画の設定、定款の一部変更、役員選任規程の一部変更、規約の一部変更、信用事業規程の一部変更、農業経営受託規程の一部変更、農業倉庫規程の廃止、第9次地域農業振興計画・JA中期経営計画、営農賦課金の賦課及び徴収、役員報酬の支給、販売事業基盤強化積立金実施要領に基づく各助成事業

の実施、土地改良事業の実施、出資増口の実施等に係る議案等を提出し承認を求めるとしています。開催日が近くなりまして総会招集通知を送付しますので組合員の皆さまには都合を繰り合わせてご出席下さいますようお願い致します。

**JA女性部大豆サークルが味噌作り**

2月24日、JA女性部大豆サークルの皆さん12人が、峰延福祉会館の厨房を借りて本年の味噌作りを行いました。同サークルの味噌作りは20年近く続いていて、峰延産大豆を使い1年分の自家用の味噌を手作りするのが、この時期の恒例行事という事です。



空気が入らないように容器に入れます

この日に仕込んだ味噌は今年の10月頃に食卓に出るということでした。それぞれ自宅で煮た大豆を持ち寄り麹と混ぜた後に豆ミンサーでミンチ状にし、空気が入らないように叩きつけこぶしで押しながら容器に入れ、大豆の栄養と旨みがたっぷり煮汁で固さを調整し、カビ対策の唐辛子を入れていました。最後に塩をふり、旨味の決め手となる根昆布を大豆ミンチに刺して仕込み完了です。

参加者は、手作り味噌には市販品と違って無添加で子供や孫たちにも安心して食べさせられ、味も自分たちの好みで作ることができ、大豆の甘味が感じられコクのあるまろやかな味に仕上がるのが自家製ならではの楽しみと話していました。



根昆布で旨味たっぷり

**農協地区別懇談会を開催します  
3月11日から4日間7会場**

本年度の地区別懇談会は3月11日から開催します。この懇談会は例年同様に午前と午後で開催地区を分けて全7会場で開催しますので、最寄の会場へご出席下さいますようお願い致します。多数のご出席をお待ちしています。

**農協地区別懇談会開催日程**

日	時	会 場	参 集 範 囲
(金) 3月11日	9時00分～	北村東地区公民館	中 小 屋
	14時00分～	上美唄中央会館	上 美 唄
(土) 3月12日	9時00分～	豊葦営農改善センター	豊 葦 ・ 拓 北
(月) 3月14日	9時00分～	光北福祉会館	光 珠 内 北
	14時00分～	光中ふれあいセンター	光 珠 内 中 央
(火) 3月15日	9時00分～	岩峰流動化センター	岩 峰 ・ 大 願
	14時00分～	JA三階会議室	峰 延 ・ 峰 三

27年産米食味ランキング発表

道産米の3品種銘柄は今年も特A

日本穀物検定協会は2月25日に平成27年産米の食味ランキングを発表しました。専門の評価員20人が外観、香り、味、粘り、硬さ、総合評価の6項目について5段階で評価します。食味試験のランクは、複数産地コシヒカリのブレンド米を基準米として、これと試験対象産地品種と比較し概ね同等のものを「A」、基準米よりも特に良好なものを「特A」、良好なもの「A」、やや劣るものを「B」、劣るものを「B」として5段階評価を行い、ランク付けを行います。

27年産米は44道府県の139産地品種銘柄が評価に参加し26年産米より6銘柄多く過去最多となりました。特Aは46点（26年産42点）で過去最多、Aは60点（26年産70点）、Aが33点（26年産21点）となり、BとBは全年産同様にあります。全体に占める特Aの割合は33%で前年比1%増えました。

TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）や平成30年をめどとして

いる米の生産調整（減反）の廃止で米の販売競争の激化が想定される中、食味評価の参加数、最高評価の特Aの評価数が年々増加し、新たな人気銘柄で米消費を喚起する動きが盛んです。

北海道米は、「ゆめぴりか」が5年連続、「ななつぼし」が6年連続で特Aの評価、「ふっくりんこ」は26年産が参考品種（作付面積が少なく、食味ランキングの対象ではないが、話題の品種として特に食味試験）として特Aの評価を受けていました。27年産で正式に特Aの評価を受けました。これにより北海道米は3ブランドが特A評価を受けたこととなります。「きらら397」は前年産米と同じく上から2番目のAでした。

峰延水稲土壌研究会から 善種金に推薦

峰延水稲土壌研究会の解散に伴う同会名義の貯金口座解約で同会計の沼田勝美さん（拓北）がJAを訪れ、解約時の貯金残高44,979円を善種金に推薦いただきました。

ご厚志に厚く感謝申し上げます。

職員採用

2月22日付けで採用した職員を紹介いたします。

当人には、一日も早く職場に慣れ担当業務に精通し一人前のJA職員になるよう伝えてあります。皆さまのご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

- 氏名 森 未寿樹
- 年齢 23歳
- 出身校 札幌学院大学経営学部経営学科

（岩見沢緑陵高校情報コミュニケーション科）



北海道米の道内食率88% 前年度より1ポイント下がる

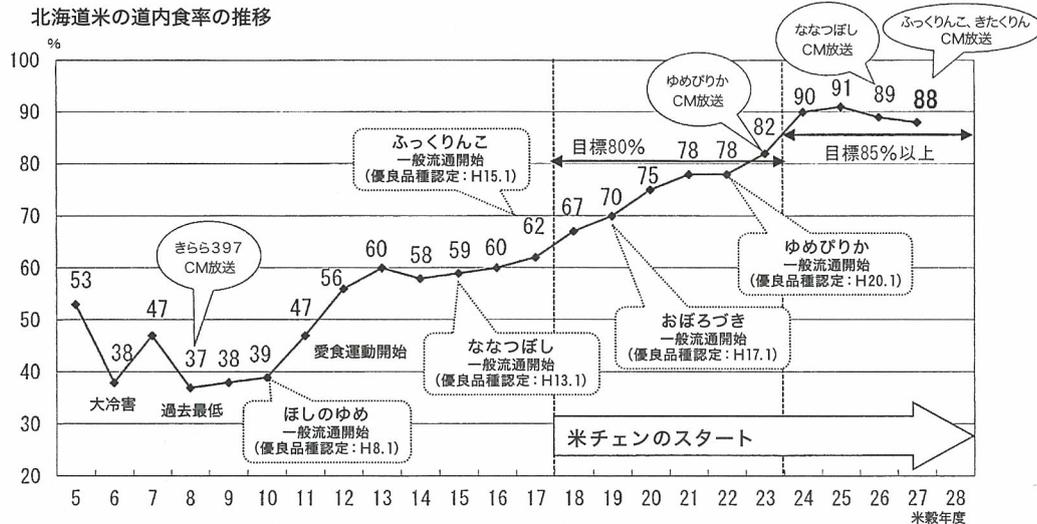
道農政部の発表によると、平成27米穀年度（平成26年11月～平成27年10月）における北海道米の道内食率（道内の米消費量に占める北海道米の割合）が前年度より1

ポイント下がり88%（暫定値）となり、「米チェン」が目標としている85%を4年続けて上回りました。

27米穀年度は主に26年産米の消費期間で、道農政部によると道内消費量は31万9352ト（前米穀年度32万6281ト）で、うち府県産米消費量は3万8427ト（同3万4332ト）、北海道米消費量は28万925ト（同29万1949ト）で、道内食率は88%（前87.97%）となりました。

道農政部では、平成26年産米の全国的な価格低迷により、道内においても府県産米が安値で販売され、平成27米穀年度における北海道米の販売環境は非常に厳しい状況にあったが、北海道米のテレビCMやコンビニのおにぎり・弁当等の業務用の利用拡大などで米チェンが目標としている85%以上を確保出来たとしています。

引き続き、関係機関・団体と一体となり、オール北海道体制による「米チェン」、ゆめぴりか認定マークの認知度向上によるブランド力強化、コンビニ・スーパー等との連携による中食・外食等業務用米の需要拡大、多様な需要に



える良質・良食味米の安定生産やコスト低減の取組みを進めるとして



挨拶をする吉村女性部長

2月25日、JAみねのぶ女性部第65回通常総会がJA会議室において、部員21名が出席して開催されました。

豊葦支部の高坂理事の司会進行により、議長に光中支部の斉藤京子さん・書記に光北支部の荒井智美さん・議事録署名員に光南支部の草野美智子さんが選出され議事に入り、平成27年度事業経過報告並びに収支決算報告が承認され、平成28年度活動方針(案)と事業計画(案)並びに収支予算(案)

J A 女性部第65回通常総会終了

と部費の納入について一括上程し原案通り可決されました。

総会終了後、生活作品展が開催され、部員が作った衣・食合わせで約13作品が展示されました。料理は試食ができて出品者にレシピを聞いたり、手芸品の作り方などを質問し合う様子が見られました。引き続き、第1回女性セミナーを行い、美唄市地域包括支援センターの古東主査(看護師)を講師に迎え「認知症サポーター養成講座」を聞き、その人らしく暮らしていくために」をテーマに講演が行われました。美唄市



生活作品展で料理の試食



女性セミナーで認知症サポーター養成講座

の65歳以上の現状や認知症の早期発見と症状の理解について、認知症サポーターとして出来ることなど、DVDを使いわかりやすい説明がありました。講演終了後、参加者に認知症サポーターの証「オレンジリング」が渡されました。

～第28回 J A北海道大会(平成27年11月11日開催) パネルディスカッション～

## 所得増につながるより強固なプラットフォームへ 平成30年にむけて激論を

株式会社セイコーマート社長 丸谷 智保氏

J A北海道大会で開催したパネルディスカッションでパネリストの皆さんから提言頂きました「北海道農業とJ Aグループに期待すること」をシリーズで紹介いたします。



またにもやす  
**丸谷 智保氏**

株式会社セイコーマート 社長

第2回は、丸谷智保氏の提言を紹介します。

### 流通機構、構造を簡素化し 中間マーシンの排除

セイコーマートグループ全体で農業法人として108haを耕作しているが、農業における流通機構、構造をより簡素化して、中間マーシンを排除し、農業所得に振り向けることが重要だと思ふ。

そのためのより強固なプラットフォーム(基盤)として、農協あるいは中央会の必要性はより強まっている。

それから、例えば、簡素な効果的な流通機構という点については、歩留りを上げるため非正規品、ハネものが流通する市場をつくる。常に苦勞する歩留まり向上にどれだけ

繋がるマーケットを創造できるか。

### 海上輸送の効率化

我々も物流には苦勞している。遠い農村から市場の都市あるいは首都圏へ物流するコストは非常に大きい。北海道は、どうしても海上輸送が必要になるが、これを効率化する。

そういう意味でも組織の意味は強い。効率化を進めることで、所得を増加させ、配分を変えていく。

また、プラットフォームである農協が商品の価格を評価し、即買い取り、即支払う仕組みを作つてはどうか。資金繰りの向上につながる。

その他に、農繁期の人材の確保、販路拡大。これらは今でもやっているが、より強固にしていふ。

そして安定供給、物流面での大胆な提言、これは政府に對してもやっていく。こういったことをすべき組織としてより強いものを作つていったらどうか。

### 戦から外交戦略へ

平成30年に向けて激論をし、結論を出してほしい。もうそ

の時期に入っている。これから平成30年の大会に向けて、守るとか防衛するという戦をするのではなく、外交戦略・外交交渉をすべきではないか。戦と外交の違いは、戦は勝つべき戦だが負けるかもしれない。外交は100%はとれないが、最低限守るべきものは守る、あるいは主張すべきものは主張してとる、ということ。

そういつたことを踏まえた真摯な議論・激論、そして結論を出すことをご提言申し上げたい。

今回、所得増の具体的な数値目標を掲げたのは素晴らしい。議論を尽して、2つでも3つでも具体論に結びつけるやうに、だめだったならまたや

る。

物流を見直す、法律化する、政府から引き出す。例えば、農産物を運ぶのに高速道路を使えばタダにする。フェリー代を安くすれば、競争力のある農産物をもっと本州に出せるかもしれない。所得の分配に結び付く具体的な議論をして一致団結してぶつける外交交渉に入っていくべきではないか。

### 最後に一言

セイコーマートでは、ほとんど北海道の原材料、農産物を使つており、大地の恩恵をものすごく受けていると感じる。北海道は特別な地域だが、中央では、ひとくくりで見られていふ。550万人のサポーターを味方につけて、北海道から日本全国の農業の重要性を、ぜひ組織力を発揮して発信して頂きたい。

